

分 布 樺太、北海道

コメツキムシ科 Elateridae

5. トビイロムナボソコメツキ *Agriotes fuscicollis* Miwa食 餌 植 物 麥類、バレイシヨ、キビ、タウモロコシ、エンドウ、カンラン、ナス、ト
マト、キウリ、ネギ、禾本科牧草、其の他多くの植物

分 布 樺太、北海道

シロテフ科 Pieridae

6. エゾシロテフ *Aporia crataegi adherbal* Fruhstofer

食 餌 植 物 リンゴ、サンザシ

分 布 樺太、北海道、朝鮮(亞種)支那、シベリヤ、ヨーロッパ、北アメリカ
(基種)

以上樺太廳中央試験所彙報第8號昭和9年3月(樺太農作物害虫目録)に據る

3. 誘蛾燈に飛來せる大蛾中内地何れの地方にも未だ
其の發見を認めざる種類

ドクガ科 Liparidae

1. カラフトスギドクガ *Dasychira abietis sachalinensis* Matsumura

ヤガ科 Noctuidae

2. ミミヤガ *Agrotis baja bajula* Staudinger3. ヒメカタモンヤガ *Agrotis deplanata* Eversmann4. カバスヂヤガモドキ *Agrotis exustiformis* Matsumura5. イツシキハイイロヤガ *Agrotis isshikii* Matsumura6. カラフトウスグロヤガ *Agrotis karafutonis* Matsumura7. ナガオビチヤイロヤガ *Agrotis punicea* Hübner8. ハヒイロスヂヤガ *Agrotis subrosea subcoerulea* Staudinger9. フルシヨウヨタウ *Aplectoides furushonis* Matsumura10. オホタニヨタウ *Hypoxestia ohtaniensis* Matsumura11. カラフトキシタヤガ *Rhynchagrotis chardinyi* Boisduval12. ムラサキヨタウ *Polia contigua amurensis* Spuler13. ハヒイロヨタウ *Polia glauca aperta* Gever14. クロヨタウ *Polia mortua* Staudinger15. マメヨタウ *Polia pisi* Linné16. ハヒマダラヨタウ *Polia proxima* Hübner17. ウスムラサキヨタウ *Aplecta advena nitens* Haworth18. カラフトフタオビキヨタウ *Hyperiodes sachalinensis* Matsumura19. スジグロシロヨタウ *Sideridis comma* Linné20. タンボシロヨタウ *Sideridis pallens* Linné21. エゾモクメヤガ *Brachionycha nubeculosa grisescens* Spuler22. ハイイロキリガ *Lithophane brachyptera* Staudinger ?23. ハンノホソキリガ *Lithophane ingrlica* Herrig-Schiffer24. クモガタキリガ *Lithophane lamda* Fabricius25. キタアヤモクメヨタウ *Xylina vetusta* Hübner26. ハガタナガクロヨタウ *Crino satura* Schiffermüller27. コゴマヨタウ *Euplexia bella* Butler28. カラフトコウスヤガ *Athetis funesta* Staudinger29. カンランギンウハバ *Phytometra gamma* Linné30. アカギンウハバ *Chrysoptera aurata* Staudinger31. ウコンウハバ *Chrysoptera moneta esmeralda* Oberthür32. ネジロイラクサキンマダラ *Abrostola tripartita* Hufnagel33. カラフトクビグロセダカ *Toxocampa craccae lutosa* Warren34. テンクロアツバ *Rivula sericealis* Scopoli

ヒトリガ科 Arctiidae

35. キシタホソガ *Lithosia griseola vetusta* Walker

シヤクトリガ科 Geometridae

36. アトヘリアヲシヤク *Aracima muscosa sachalinensis* Matsumura37. オホシロオビアヲシヤク *Hipparchus papilionaria herbacearia* Ménétrics38. チビムヂアヲシヤク *Hemistola ichinosawana* Matsumura39. ウスモンシロヒメシヤク *Acidalia caricaria* Reutti40. フタスヂヒメシヤク *Acidalia immutata* Linné41. カラフトシロヒメシヤク *Acidalia nemoraria* Hübner42. カラフトカバスヂヒメシヤク *Acidalia sachalinensis* Matsumura43. ヨツメヒメシヤク *Cosymbia pendularia* Clerck44. シモガレナミシヤク *Operophtera boreata* Hübner45. アキナミシヤク *Oporinia dilutata* Borkhausen46. スグリハガタナミシヤク *Lygris prunata* Linné47. キアシシロナミシヤク *Cidaria abraxina* Butler48. カバスヂナミシヤク *Cidaria citrata immanata* Haworth49. ヒメサカハチクロシヤク *Cidaria corydalaria ichinosawana* Matsumura

50. サカハチクロシヤク *Cidaria hecate sachalinensis* Matsumura
 51. ヒメカバズチナミシヤク *Cidaria taeniata* Stephens
 52. シロオビヘソグロナミシヤク *Cidaria tristata* Linné
 53. ホソチビナミシヤク *Eupithecia absinthiata* Clerck
 54. イチノサワチビナミシヤク *Eupithecia ichinosawana* Matsumura
 55. カラフトチビナミシヤク *Eupithecia innotata* Hufnagel
 56. スダリエダシヤク *Abraxas grossulariata karafutonis* Matsumura
 57. コフキエダシヤク *Anagoga pulveraria violacearia* Graeser
 58. ムクゲエダシヤク *Lycia hirtaria* Clerck
 59. ミスヂフユエダシヤク *Erannis aurantiaria* Esper
 60. フトフタオビエダシヤク *Boarmia b'stortata* Goeze
 61. カラフトエダシヤク *Boarmia maculata sachalinensis* Matsumura
 62. ゴマフエダシヤク *Ematurga atomaria* Linné
 63. ネスヂナミシヤク *Photoscotosia achrolopha* Püngeler
 64. ヒロオビナミシヤク *Cidaria coerulata* Fabricius
 65. ウスムラサキナミシヤク *Cidaria derivata* Schiffermüller
 シヤチホコガ科 Ceruridae
 66. タテスヂシヤチホコ *Notodonta rothschildi sachalinensis* Matsumura
 トガリバ科 Cymatophoridae
 67. カラフトアヤトガリバ *Habrosyne intermedia* Bremer
 68. オクエゾトガリバ *Palimpsestis orterosa* Graeser
 69. ネグロガリバ *Palimpsestis tancrei* Graeser
 70. ミスヂトガリバ *Polyploca flavicornis* Linné
 71. タマヌキトガリバ *Neodaruma tamanukii* Matsumura
 カバガ科 Endromiidae
 72. カバガ *Endromis versicolor sachalinensis* Matsumura
 カキバ科 Drepanidae
 73. ウスオビカギバ *Falcaria harpagula* Esper
 74. カラフトカギバ *Albara sachalinensis* Matsumura
 ミノガ科 Psychidae
 75. カラフトミノガ *Sterrhopteryx sachalinensis* Matsumura
 コウモリガ科 Hepialidae
 67. キタカウモリ *Hepialus fusconebulosa askoldensis* Staudinger

以上樺太廳中央試験所報告第11號(昭和10年9月)に據る

4. 樺太に於て被害激甚なる害蟲にして本島より内地に移入 する植物に附着し傳播の危険著大なる種類

樺太に於ける農作物の害蟲中未だ内地に其の發生を認めざるもの頗る多く何れも傳播防止の必要あるは言を俟たざるも就中最も食餌植物の多岐なると加害の激甚なる點に於て「クロウリハムシモドキ」及「アトウシヤガ」の兩種は特に恐るべき害蟲なるを以て嚴重なる取締を行ひ傳播防止の完璧を期する要ありと信す。

而して前者は卵態後者は幼蟲態にて何れも食餌植物に近き土中に越冬するを以て土壤附着の植物は特に危険なり。

5. 樺太より移入する植物の概況

近年内地特に京濱及阪神地方にて觀賞用として高山植物流行し之を愛好する者逐年増加の傾向に在り之を産する北海道及千島列島にては殆んど其の採集を禁止しあるも樺太に於ては特殊地域の外全く制限なきを以て現在内地需用の殆んど全部が本島産のものとなし其の數量に在ては據るべき統計なく従て具體的に實數を擧げ得ざるも豊原在住の植木商 2、3 に就き調査せしに何れも年間約 2 千乃至 3 千本を秋末に於て前記地方へ移出しつつあり。

尙近年夏季團體及學生の暑中休暇を利用し本島を視察する者多く之等の人々の多くは觀賞用高山植物を土産品に或は山野、路傍に自生の所謂高山植物類を採集し記念に之を持歸る者前記期間中稚内、大泊連絡一便船(1日1回の定期)にても10件乃至20件に達す。(稚内、本泊間1日1回の定期船も略同様なり。)

而して之等總ての植物は鉢植又は多量の土壤を附着せるものなり。

6. 結 論

以上の如く本島産昆蟲にして、農作物の害蟲として既に認められたる種類中、未だ内地に其の發生を認めざるもの7科14種、内地の一部(北海道)に其の發生を認むるの外、未だ廣く發生を認めざるもの4科6種、誘蛾燈に飛來せる大蛾中、何れの地方にも未だ其の發生を認めざるもの10科76種を擧げ得べく、其の中には本島農林作物の害蟲として、未だ認められざるものあるは、現在に於ける耕地面積の狭小と、農林作物の種類比較的少數なると、調査未了のものあるに起因するものと看做得べきも、今後農林業の發達と、調査の進捗に伴ひ、害蟲も次第に追加せらるるは明白なり。即ち前記大蛾中「シモガレナミシヤク(44)」、「アキナミシヤク(45)」、「ムクゲナミシヤク(58)」、「ミスヂフユエダシヤク(59)」、「ミスヂトガリバ(70)」の如きは、ヨーロッパ、シベリヤ地方に廣く分布し、潤葉樹の害蟲として、又「カラフトクビグロセダカ(33)」は、ヨーロッパに於てソラマメ、ゲンゲ等の害蟲として、何れも認められたる種類なりとす。

尙今回の調査に於て、觀賞用高山植物類に、本島未記録の介殼蟲、及蚜蟲を發見し目下調査中なり故に本島にて未だ、農園及森林に認められざるものと雖も、今後慎重に考慮警戒するの要ありと信す

然るに本島と北海道とは、氣候、風土及農林作物の種類等近似の状態にして、且つ地理關係上、貨客の殆んど全部が本道を経由するを以て、之等害蟲に對し甚しく脅威を感ずるのみならず、本島には未だ植物検査機關なき爲、海外よりの植物類は全く無検査のまま輸入せらるるの實情なれば、之等植物類が更に、二次的に内地へ移入せらるるの虞なきを保し難く、輸出入植物取締上甚だ遺憾なるを以て、稚内港を植物検査海港に指定すると共に、樺太より移入する植物類の検査を実施し、災禍を未然に防止するは輸出入植物取締上極めて緊急なりと信す。

2. 苹果黄腐病菌(假稱)に関する調査(豫報)

福井白志

苹果輸出検査の参考に資する爲に之に附着する病菌に付調査中偶々當關前植物検査課長深井勝海氏は生果實に發生せる炭疽病類の病果を青森縣下に於て採集筆者に提示せり、之が鏡檢の結果從來報告せられたる炭疽病菌とは異なるを認め昭和13年11月以降本病菌に関する調査に着手せり。

本病は青森縣苹果栽培業者の既に注目しおるところにして昭和14年3月末筆者が弘前市にて國光につきて調査を爲したる際總數の1%は本病菌の寄生を受けおれり、然るに同地業者の談によれば、發病甚しき時は貯蔵果の10%に及ぶと云ふ。尙筆者の輸出検査に際して甚しきは1箱(140箇入)より3-4箇の被害果を發見せる状態なるを以て相當重要視すべき病害なりと信す。

病 徴

本病發生の時期並に發病部位は未詳なれども採果前發病し貯蔵中傳播蔓延するものと信す。

病斑は最初果面の1部に褐色小斑點を生じ漸次圓形に擴大すると共に其の中央は鮮黄色又は帶褐黄色を呈す、之本病の特長なりとす、而して其の周圍は褐色乃至栗褐色に變じ日を経るに従ひ凹陷す、後其の部に大小不規則又は放射狀の皺縮を生ずるを普通とするも時に病斑部全體鮮黄色を呈するもの又は褐色なるものあり何れの場合にありても、古き部分にては多數黄色又は褐色の細微なる突起を孤生或は連生し適當なる状態のもとにありては之より淡黄色の粘質物を分泌す。

病 原 菌

(1) 病 原 性

本病被害部組織並胞子の分離培養を行ひ之が病原性の有無に付き次の接種試験を行ひたり。

1. 供試菌系統 第1號菌(青森産國光より分離)
2. 實驗方法並結果 健全と認むる生果實(國光)を常法に依り表面消毒を行ひ之を附傷、無傷の兩接種區及標準區に分ち各區に5箇宛を使用せり、而して附傷接種區は殺菌針にて突傷を附せり之に豫め培養せる菌叢の1部を同大に白金線にて切取り各箇2ヶ所宛接種し各區別に殺菌硝子器内に納め24°Cに調節せる定溫器に納置せり、而して硝子器内の關係溫度は常に95%以上に保たしめ接種後11日目に調査を行ひし結果は次の如し。

附傷接種區 接種後1週間目に周圍僅かに褐色を帯び11日後に於ては全接種

部圓形又は楕圓形に周圍栗褐色内部鮮黄色を呈せる典型的病斑を生ず、大き5-12mm。

無傷接種區 11日後に於ても何等異狀を認めず。

標準區(無接種)何等異狀を認めず。

(接種に依り變色せる比較的新しき組織より菌の再分離を行ふ時は常に原菌と同一菌を得)。

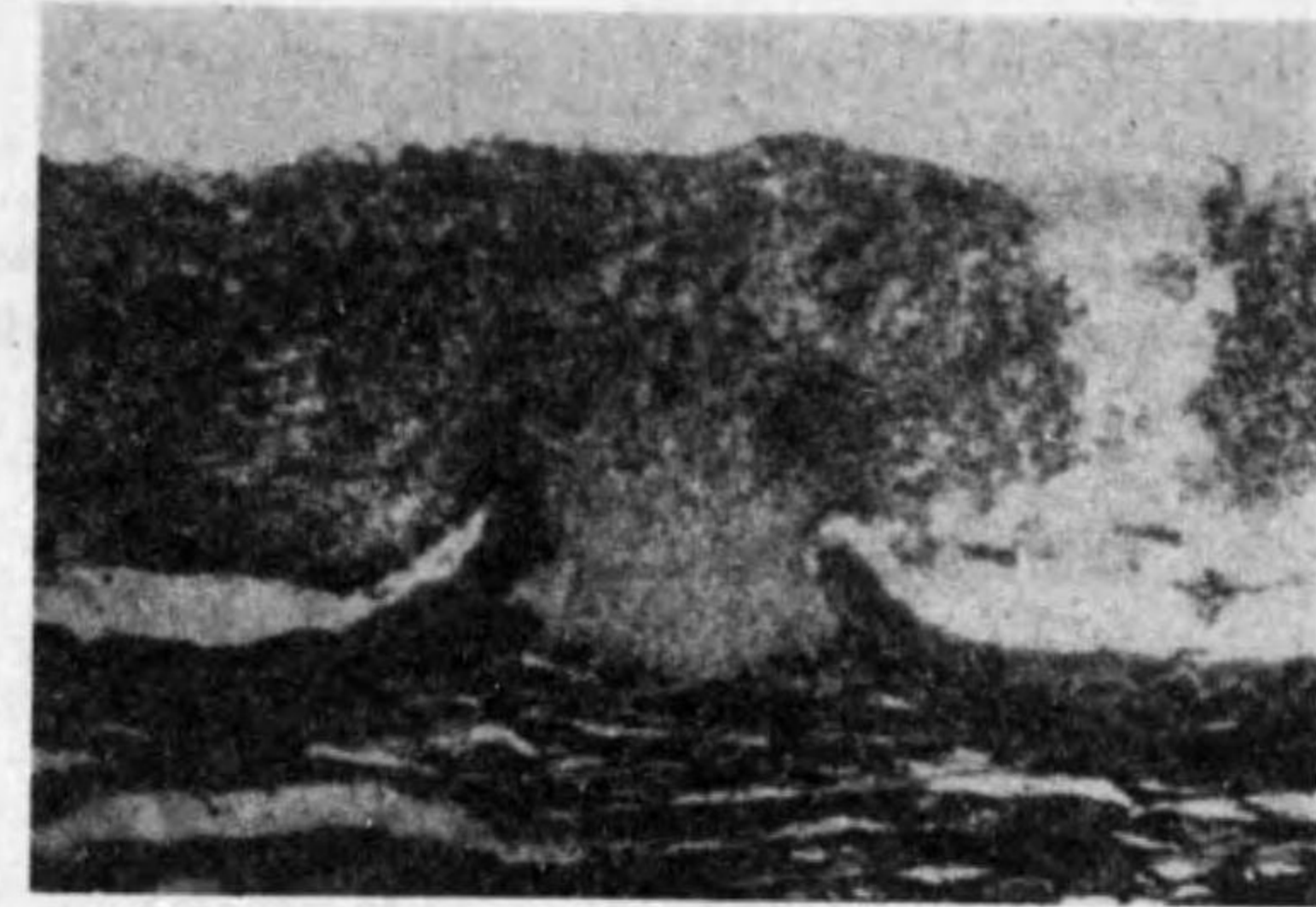
(2) 病 菌 の 形 態

病斑部に生ずる小突起は本菌の孢子層にして横断面は圓形又は楕圓形を呈し縦斷するときは略圓錐形なり、最初表皮下組織に埋没せるも成熟するに従ひ之を破り突出す、底部は褐色多角形の細胞層をなし多數の擔子梗を生ず。

擔子梗は密集し無色單一なるか、又は分枝し0-3箇の隔膜を有し多數の顆粒狀物を藏す、大きは18-66 μ ×3-4 μ あり、其の頂端に分生胞子を生ず。

分生胞子は無色、長楕圓形、楕圓形、又は紡錘形を呈し多くの場合1端漸尖す、又中繼せるものあり、單胞にして内容透明なるか、又は大小の顆粒狀物を含有す。大きは環境に因り多少の差異あり、今測定せる數例を表示すれば次の如し。

第1圖



病組織に生ぜる孢子層より分生胞子の溢出せる狀(フレンジ氏三重染色法)

品 種	採 集 地	長 さ		幅		測 定 數
		範 圍	最 多 負 數	範 圍	最 多 負 數	
國 光	青 森 縣	6-16 μ	10 μ	3-5 μ	4 μ	244
ゴ ー ル デ ン デ リ シ ャ ス	〃	6-17	12	3-5	4	202
國 光	〃	6-16	10	3-5	4	211
〃	函 館 市	5-12	9	3-4	3	100

上表に示すが如く品種、採集地に因り差はあるも其の範圍は5-16×3-5 μ なり。

本菌は培養基並被害果上に於て子囊殼の形成を認め得ず、學名に付きては更に調査の上發表すべし。

(3) 病 菌 の 發 育 と 溫 度 と の 關 係

發育の適溫を知らんとし、本病菌の生果實上於ける實驗を行へり。

供試菌系統 第2號菌 (「ゴールデンデリシャス」より分離)

實驗方法並結果 常法に依り消毒せる生果實 (國光) を溫度を異する毎に6個宛殺菌硝子器に入れ各果2ヶ所突傷を附し本菌培養により生ぜる胞子の濃厚懸濁液を1白金耳宛其部に塗抹し、之等を所定溫度に保てる器内に納め2回に亘り病斑の大きさを測定せり。

調査月日	接種 溫度	2月14日 (接種後1週間)			2月21日 (接種後2週間)			備考
		發病數	病斑の大きさ		發病數	病斑の大きさ		
			範圍	平均		範圍	平均	
0-3	12	0	0	0	0	0	0	感染せず
3-19	12	0	0	0	10	3-7	4.7	1週間目は測定不能 2週間後典型的病斑
18-20	12	4	5-7	6.5	5	5-16	11.2	典型的病斑
24	12	12	3-9	7.3	12	5-15	10.2	・
28	12	2	4-7	5.2	12	4-9	6.4	・
32	12	0	0	0	3	3-6	4.2	1週間目感染の有無不明 2週間目僅かに變色

備考 (イ) 0-3°Cは冷蔵庫、3-19°Cは實驗室、18-20°C其の他は定溫器内。

(ロ) 病斑は長徑、短徑を測定し其の平均は病斑總數の長徑及短徑に依り算出す。

上表に依れば本菌の侵入及び侵入後の發育適温は略 18-24°C なるものの如し。

(4) 病斑に及ぼす光線の影響

本菌が寄主に侵入するに際し、又侵入後に於て光線が如何なる影響を及ぼすかを知らんとし次の實驗を行へり。

供試菌系統 第2號菌

病菌接種に因り生ずる病斑と光線の有無の關係



左 遮 光 区 右 標 準 区

實驗方法並結果 健全なる生果實 (國光) を常法に依り表面消毒を行ひ區別、接種方法を異にする毎に其の3個宛を徑 30cm のベルジャーにて覆ひ實驗室(溫度13-30°C)に置きたり實驗室は

直射光線を受けざる程度の明さを保ち25日後病斑の形成の有無、並大きさに付調査せり。

區別並に接種方法は次の如し。

遮 光 区 各ベルジャーに黒色羅紗紙を使用し二重包となし器内を暗黒にせり、接種方法は附傷、無傷にて接種を行ひ別に無接種標準を設けたり。各個に於ける接種は2箇所とす。

短期遮光区 光線遮断法は前区に同じ但し遮断期間は接種後3日間とす、接種方法別は前と同じ。

標準区 光線遮断方法を行はず、接種方法別は前に同じ。

接 種 別	遮 光 区			短 期 遮 光 区			標 準 区		
	附 傷	無 傷	無 接 種 標 準	附 傷	無 傷	無 接 種 標 準	附 傷	無 傷	無 接 種 標 準
接 種 顆 數	3	3	3	3	3	3	3	3	3
病 斑 數	6	0	0	6	3	0	6	4	0
病 斑 の 大 小 平 均 直 徑 mm	16.70	0	0	22.50	5.20	0	21.00	8.00	0

上表に示すが如く遮光区は病斑數並に其の大きさ他の2区に比して甚しく劣るを以て光線は病斑の擴大を助長するに力ありと思惟さる、此の結果は苹果荷造又は包裝に際し注目すべき問題なるを以て更に詳細なる調査を行はんとす。

摘 要

1. 青森縣産苹果に從來の炭疽病と趣を異にする炭疽病の一種を認めたるを以て假に苹果黄窩病と命名し之が一般的調査を行ひたり。
2. 本病は主として貯藏中に發生蔓延するものの如く其の被害は比較的大なり。
3. 病斑は略炭疽病に類似するも其の色は黄色乃至黄褐色にして周圍は褐色又は栗褐色なるを普通とし病勢の進展は極めて遅々たり。
4. 本菌は傷痕寄生菌と認めらるるも稀に無傷にても寄生する場合あるものの如し。
5. 病菌の形態は略炭疽病菌に類すれども胞子の大小小にして擔子梗は極めて長し。
6. 本菌の發育適温は 18°C にして菌の寄主侵入並に病斑の擴大速度は光線によりて助長さるる傾向あり。

農事改良資料目録

番 號	名 稱	刊 行 年 月
第 一	優良農用器具機械ニ關スル調査	昭和四年四月
第 二	種藁ニ關スル協議會要録	同 年 六 月
第 三	穀物検査事業要覽(第六號)	同
第 四	穀物火力乾燥装置ノ概要	同 年 七 月
第 五	道府縣農事試驗場ニ於ケル陸稻ニ關スル試驗成績概要	同 年 十 月
第 六	主要食糧農産物改良増殖獎勵事業要覽	同 年 十 二 月
第 七	昭和二年度農具共同利用ニ關スル調査	昭和五年三月
第 八	肥 料 要 覽	同
第 九	病害蟲驅除豫防協議會要録(昭和四年四月開催)	同
第 一〇	昭和三年輸移出入植物検査統計(第五號) 附 輸移出入植物病害蟲調査研究事業概要	同
第 一 一	麥其ノ他穀物要覽	同
第 一 二	本邦内地ニ於ケル麥酒用大麥及麥酒ニ關スル調査	同
第 一 三	豆 類 要 覽	同
第 一 四	桃葉蜂ニ關スル研究	同
第 一 五	動力稻摺選別機比較審査成績	同
第 一 六	工藝農産物要覽	同
第 一 七	水稻栽培過程別時期ニ關スル調査	同 年 十 月
第 一 八	農産主任技術官會議要録	昭和六年三月
第 一 九	穀物検査事業要覽(第七號)	同
第 二 〇	稻熱病ノ防除ニ關スル試驗研究成績	同
第 二 一	茶 葉 要 覽	同
第 二 二	農業用小型發動機審査成績	同
第 二 三	昭和四年輸移出入植物検査統計(第六號) 附 輸移出入植物病害蟲調査研究事業概要	同
第 二 四	優良農用機械ニ關スル調査	同
第 二 五	主要食糧農産物改良増殖獎勵事業要覽	同
第 二 六	道府縣ニ於ケル農産物改良増殖ニ關スル獎勵事項	同
第 二 七	道府縣農事試驗場ニ於ケル小麥ニ關スル試驗成績概要	同
第 二 八	園 藝 要 覽	同
第 二 九	Japanese Coccidae I. The genus Phenacaspis II. The genus Kermes in Japan	同
第 三 〇	稻熱病ニ關スル研究	同 年 四 月

番 號	名 稱	刊 行 年 月
第 三 一	水稻栽培=於ケル慣行施肥量及施肥期=關スル調査	昭和六年三月
第 三 二	稻熱病防除ノ一方法トシテ種籾ノ消毒及蒸處分	同 年 十 二 月
第 三 三	植物検査官會議要録	昭和七年三月
第 三 四	豆 類 要 覽	同 年 二 月
第 三 五	麥其ノ他穀物要覽	同 年 三 月
第 三 六	穀物検査事業要覽(第八號)	同
第 三 七	道府縣農事試験場=於ケル大豆=關スル試験成績概要	同
第 三 八	主要食糧農産物改良増殖獎勵事業要覽	同
第 三 九	農業用器具機械並共同作業場普及調査	同
第 四 〇	昭和五年輸移出入植物検査統計(第七號)	同
第 四 一	優良農用器具機械=關スル調査	同
第 四 二	蜜柑粉蝨ノ天敵「シルバストリ」小蜂=關スル研究(第一報)	同
第 四 三	稻熱病防除=關スル試験研究成績(第二報)	同
第 四 四	綠肥作物栽培分布圖	同
第 四 五	噴霧器=關スル試験成績	同
第 四 六	紫雲英ノ菌核病ト其ノ防除	同 年 七 月
第 四 七	稻熱病=關スル研究(第二報)	同 年 十 月
第 四 八	小麥其ノ他麥類ノ菌核病(雪腐)ト其ノ防除	同
第 四 九	小麥ノ増殖獎勵=ツイテ	同
第 五 〇	農産課關係法規	同
第 五 一	小麥ノ銹病ト其ノ防除	昭和八年一月
第 五 二	螟蟲=關スル研究(第一報)	同 年 三 月
第 五 三	苧麻ノ増殖獎勵=就テ	同
第 五 四	茶樹耕種梗概	同
第 五 五	昭和六年輸移出入植物検査統計(第八號)	同
第 五 六	主要食糧農産物改良増殖獎勵事業要覽	同
第 五 七	動力精米機比較審査成績	同
第 五 八	世界=於ケル小麥事情	同
第 五 九	穀物検査事業要覽(第九號)	同
第 六 〇	園 藝 要 覽	同
第 六 一	小 麥 要 覽	同
第 六 二	農産物検査概要	同

番 號	名 稱	刊 行 年 月
第 六 三	穀 物 要 覽	昭和八年三月
第 六 四	稻熱病ノ防除=關スル試験研究成績(第三報)	同
第 六 五	工藝農産物要覽	同
第 六 六	稻熱病ノ防除=關スル試験研究成績(第四報)	同 年 六 月
第 六 七	貯藏小麥ノ主ナル害虫ト其ノ防除法	同 年 七 月
第 六 八	日本産介殼蟲科デアスピ亜科=關スル研究(其七)歐文	同 年 八 月
第 六 九	蔬菜及果樹ノ品種改良=關スル調査	同 年 十 月
第 七 〇	最近=於ケル歐羅巴諸國ノ穀物貿易制限策	同 年 十 二 月
第 七 一	優良農用器具機械=關スル調査	昭和九年二月
第 七 二	農産物検査概要	同 年 三 月
第 七 三	農産物検査事業要覽(第十號)	同
第 七 四	小麥増殖獎勵協議會要録	同
第 七 五	昭和七年輸移出入植物検査統計(第九號) 附 輸移出入植物病害虫調査研究事業概要	同
第 七 六	穀 物 要 覽	同
第 七 七	柑橘選果機=關スル試験成績	同
第 七 八	植物検査官會議要録	同
第 七 九	螟蟲ノ防除=關スル試験研究成績(第一報)	同
第 八 〇	園藝農産物改良獎勵=關スル協議會要録	同
第 八 一	園藝=關スル研究報告	同
第 八 二	昭和七年度自給肥料改良増殖獎勵事業成績概要	同
第 八 三	穀物火力乾燥装置ノ概要	同
第 八 四	小麥栽培過程別時期=關スル調査	同
第 八 五	小麥栽培=於ケル慣行施肥量及施肥期=關スル調査	同
第 八 六	動力製粉機比較審査成績	同
第 八 七	小麥増産=關スル試験成績ノ概要	同
第 八 八	農業用器具機械並共同作業場普及狀況調査	同
第 八 九	主要食糧農産物改良増殖獎勵事業要覽	同
第 九 〇	螟蟲=關スル研究(第二報)	同 年 八 月
第 九 一	病害蟲驅除豫防試験研究成績	同 年 十 月
第 九 二	東北地方=於ケル昭和九年ノ水稻凶作狀況調査成績概要	昭和十年一月
第 九 三	稻熱病=關スル研究(第三報)	同 年 三 月
第 九 四	農業用器具機械並共同作業場普及狀況調査	同

番 號	名 稱	刊 行 年 月
第 九 五	農産物検査事業要覽 (第十一號)	昭和十年三 月
第 九 六	昭和八年輸移出入植物検査統計 (第十號) 附 輸移出入植物病害害蟲調査事業概要	同
第 九 七	道府縣=於ケル主要食糧農作物品種改良事業ノ成績並ニ計畫概要	同
第 九 八	小麥増殖獎勵事業要覽	同
第 九 九	昭和八年度自給肥料改良増産獎勵事業成績概要	同
第 一 〇 〇	茶 業 要 覽	同
第 一 〇 一	苧 麻	同
第 一 〇 二	稻熱病ト其ノ防除	同
第 一 〇 三	病害害蟲驅除豫防協議會要録 (昭和九年十月開催)	同
第 一 〇 四	農産物検査事業要覽 (第十二號)	昭和十一年三 月
第 一 〇 五	稻熱病=關スル研究 (第四報)	同
第 一 〇 六	昭和九年輸移出入植物検査統計 (第十一號) 附 輸移出入植物病害害蟲調査研究事業概要	同
第 一 〇 七	農産物検査概要	同
第 一 〇 八	病害害蟲驅除豫防=關スル試験研究成績並ニ事業報告 (病害之部)	同
第 一 〇 九	病害害蟲驅除豫防=關スル試験研究成績並ニ事業報告 (害蟲之部)	同
第 一 一 〇	穀 物 要 覽	同
第 一 一 一	小麥ノ新品種	同
第 一 一 二	昭和十年度動力根摺選別機比較審査成績	同
第 一 一 三	農用器具機械鑑定試験成績	同
第 一 一 四	蔬菜及果樹主要品種ノ分布調査	同
第 一 一 五	螟蟲ノ防除=關スル試験研究成績 (第二報)	同
第 一 一 六	螟蟲ノ防除=關スル試験研究成績 (第三報)	同
第 一 一 七	昭和九年度自給肥料改良増産獎勵事業成績概要	同
第 一 一 八	浮塵子ノ防除=關スル試験研究成績 (第一報)	同
第 一 一 九	農産物検査概要	昭和十二年一 月
第 一 二 〇	稻熱病=關スル研究 (第五報) 特ニ稻熱病菌感染ノ經過並ニ品種ノ抵抗力ノ比較=關スル實驗	同 年 三 月
第 一 二 一	昭和十年輸移出入植物検査統計 (第十二號) 附 輸移出入植物病害害蟲調査研究事業概要	同
第 一 二 二	園 藝 要 覽	同
第 一 二 三	農用器具機械鑑定試験成績	同
第 一 二 四	農用器具機械並共同作業場普及狀況調査	同
第 一 二 五	小麥ノ新品種 (其二)	同
第 一 二 六	小麥増殖獎勵事業要覽	同

番 號	名 稱	刊 行 年 月
第 一 二 七	浮塵子=關スル研究成績 (第一報) 浮塵子ノ生態及天敵	同
第 一 二 八	工藝農産物要覽	同
第 一 二 九	小 麥 要 覽	同
第 一 三 〇	稻熱病ノ豫防=關スル試験研究成績 (第五報)	昭和十三年三 月
第 一 三 一	苧 麻	同
第 一 三 二	農業用小型重油發動機比較審査成績	同
第 一 三 三	農産物検査事業要覽 (第十三號)	同
第 一 三 四	昭和十一年輸移出入植物検査統計 (第十三號) 並ニ病害害蟲調査研究成績概要	同
第 一 三 五	農産主任技術官會議要録	同
第 一 三 六	農用器具機械並共同作業場普及狀況調査	昭和十四年三 月
第 一 三 七	昭和十二年輸移出入植物検査統計 (第十四號) 並ニ病害害蟲調査研究成績概要	同
第 一 三 八	昭和十三年一月開催農産物ノ生産確保並ニ開發=關スル協議會要録 同年十二月開催米穀増産獎勵=關スル打合會要録	同
第 一 三 九	稻ノ菌核病=關スル研究 (第一報) 稻ニ發生スル菌核病ノ種類及病菌ノ性質	同
第 一 四 〇	螟蟲=關スル研究 (第三報)	同
第 一 四 一	小 麥 要 覽	同
第 一 四 二	螟蟲=關スル研究 (第四報)	同
第 一 四 三	茶 業 要 覽	同
第 一 四 四	園藝農産物要覽	昭和十四年三 月
第 一 四 五	菜種及菜種油=關スル調査	同
第 一 四 六	主産地=於ケル果樹苗木=關スル調査	同
第 一 四 七	小麥ノ新品種 (其三)	同
第 一 四 八	糖 業 要 覽	同
第 一 四 九	穀 物 要 覽	同
第 一 五 〇	農産物検査概要	昭和十五年一 月
第 一 五 一	農産物検査事業要覽 (第十四號)	同
第 一 五 二	昭和十三年輸移出入植物検査統計 (第十五報) 並ニ病害害蟲調査研究成績概要	同

昭和十五年三月二十五日印刷

昭和十五年三月三十日發行

農林省農務局

東京市京橋區新富町一丁目七番地三

印刷者 石井精一郎

東京市京橋區新富町一丁目七番地三

印刷所 安信舎印刷所

電話京橋 (56) (二四九四番
四三二五番)

14.24
716

14. 24-717



1200501163326

1.24

17

終